

RAS-Beppu 分類に基づいた再発リスク別の大腸癌肝転移の治療選択

琉球大学病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究実施体制

代表研究機関と責任者

山鹿市民医療センター外科長 増田稔郎

共同研究機関

琉球大学大学院医学研究科 (研究責任者) 消化器・腫瘍外科学講座 教授 高槻光寿

佐賀県医療センター好生館、宮崎大学、九州大学、佐賀大学、山口大学、国立病院機構 九州医療センター、福岡大学、大分県立病院、熊本大学、大分大学、鹿児島大学、久留米大学、長崎大学、鹿児島厚生連病院、長崎医療センター、北九州市立八幡病院、済生会熊本病院、敬愛会 中頭病院

研究の目的と方法

大腸癌肝転移の治療では、肝切除が有効ですが、術前化学療法の明確な適応はありません。これまで w 私たちの研究チームでは、再発リスクを予測する Beppu 分類や、RAS 変異を加味した RAS-Beppu 分類を確立し、より高い精度で再発リスクを分類できることを報告してきました。特に再発高リスクの患者さんでは術前化学療法が有効で、生存期間の延長が確認されています。

本研究では、RAS-Beppu 分類に基づいた治療成績を検討することを目的としています。これにより、患者さんごとに最適な治療法の選択が可能となり、不要な化学療法を避け、予後の改善につながることが期待されます。過去に診療を通じて得られた情報を用いて研究を実施するため、患者さんに新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2015 年 1 月～2023 年 12 月に大腸癌肝転移に対する初回肝切除を受けた方を対象とします。

使用する試料・情報

遺伝子情報、年齢、性別、身長、体重、肝転移診断日、診断結果詳細、原発巣に関する情報(部位や手術日など)、初回肝切除治療に関する情報(手術日、術式、根治度、術後合併症の有無、退院日など)、術前・術後化学療法の有無と治療内容、再発の有無、予後など

利用開始予定日:研究機関の長の許可日以降

研究予定期間

研究実施許可日～2028 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

本研究では、研究機関の長の許可日より研究代表機関へ情報提供を行います。当院からの情報提供の際に、氏名等を削除し、個人が特定できないよう加工するため、患者さんのプライバシーは守られます。研究の成果は学会等で発表予定です。

[情報管理責任者]	消化器・腫瘍外科学講座	教授	高槻光寿
[個人情報管理責任者]	消化器・腫瘍外科学講座	教授	高槻光寿

二次利用について

本研究で収集した情報は、個人を特定できない形に加工したうえで、本研究と関連する将来の医学研究に二次利用する場合があります。二次利用を行う際には、関係する倫理審査委員会の承認を得た上で適切に実施します。

資金源

本研究の実施について資金源はありません。

利益相反

本研究において、研究者や機関に利益相反はありません。

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用・提供されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用・提供を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

問い合わせ先	琉球大学大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学講座 嶋田圭太 電話：098-894-1418
--------	--